

## 言語教育センター 2011年度 活動報告 (2011年4月～2012年3月)

## 活動内容 (実績)

## 【英語部門】

## 1) 英語教員懇談会の開催について

5月30日(月)、31日(火)、6月1日(水)の昼休みに、英語教員集団会議を兼ねて、本学の普遍教育で英語科目を担当する専任・非常勤の教員が集う「英語教員懇談会」を開催した。今年度の英語科目の運営方針の概要を説明し、あわせて、各教員から授業に関する要望を聴取した。5月31日(火)は普遍教育センターの前田早苗教授にも参加していただき、懇談会で出された要望は文書にして普遍教育室に提出した。

## 2) TOEIC-IPおよびTOEFLの学内実施について

5月8日(日)、6月4日(土)(一年次生全員)、7月10日(日)、10月15日(土)、12月10日(土)、2月4日(土)にTOEIC-IPを実施し、監督にあたった。また、6月19日(日)、12月17日(土)にTOEFL-ITPを実施し、監督にあたった。

## 3) LL教室(Language Laboratory: LL2)の機能増加による学習支援の向上について

総合校舎H号館にあるLanguage Laboratory(LL1、LL2)教室は、2006年度の学長裁量経費を得てアナログ(カセットテープ)からデジタル化され、その機能が大きく刷新された。授業中のグループ学習やランダムペア学習ができるようになったほか、授業中に学習した音声をUSBメモリーに保存して自宅に持ち帰り、LL教室と同じ状況で繰り返し口頭反復練習をして復習することが可能になった。このように、日常生活で英語を聞く機会があっても授業以外に英語を話す機会が皆無に近い学生にとって、英語のリスニングとスピーキングの機会が増大したことは非常に好ましい結果となったが、2011年度はさらにLL2教室の機能を拡大し、全学生卓でLAN接続が可能となるように教員用とは別にHUBを新たに3階に新設した。これにより、学生が各自のブースでPCを接続させて英語で協働学習(協調的なグループ活動)ができるようになったほか、まだ試行段階ではあるが、毎授業後に学生が各自のブースのPCから即時にWebを通して授業評価し、教員はその結果をただちにエクセル上に集計して分析し、学生が個々に抱える学習上の問題点を次回の授業でフィードバックできるようになりつつある。学習向上と授業改善の支援に寄与する機能が追加できたと考えている。

## 4) 普遍教育センターとの合同会議について

- ・「3・4年次の英語教育に関するワーキンググループ」(普遍教育センターとの合同委員会)の第1回会合を開き、3・4年次の学生にたいする英語教育の全学的なサポート体制について検討を始めた(8月)。
- ・「3・4年次の英語教育に関するWG」第2回会合を開き、現状把握のための全学部ア

ンケートの実施を検討した（10月）。

- ・「3・4年次の英語教育に関するWG」第3回会合を開き、アンケートの内容を決定し、全学部へ送付した（11月）。
- ・「3・4年次の英語教育に関するWG」第4回以降の会合で、アンケート結果の取りまとめと対応の協議を開始した（12月～）。

#### 5) TOEICテストとTOEFLテスト関係について

- ・「TOEICテスト」の説明会を5月9日（月）に開いた。
- ・「TOEIC Speaking/Writing テスト」を実施するにあたって、11月10日（木）に説明会を開いた。
- ・「TOEIC Speaking/Writing テスト」を11月26日（土）に実施した。受験者は29名。
- ・「TOEFL テスト」の説明会を5月23日（月）、11月29日（火）に開いた。

#### 6) 昼休み英語講座について

- ・昼休み英語講座「20分でわかる英語」を実施した。授業のような正式な形ではなく、空き時間に、各回ごとに英語の特定の問題に絞って要領よくまとめた解説を、昼食をとりながら気軽に聴ける講座。各回のテーマは次のとおり。12月7日（水）「英語の前置詞 on」、12月14日（水）「英語の前置詞 in」、12月21日（水）「英語の前置詞 at」、1月11日（水）「英語の前置詞 of」、1月25日（水）「英語の冠詞」。毎回、多数の学生および教職員の参加があった。

#### 7) 新CALL教材、スマホ版CALLシステムの開発について

2011年度、ニュース英語を素材とした上級者用CALL教材、AFP News from the Worldを開発した。ヨーロッパ編、アジア編、南北アメリカ編、アフリカ編、環太平洋編の5ユニット、計20編、40分の英語ニュース（AFP）から成る本教材は、世界で何が起きているか英語で学びながらコミュニケーション能力を高めるよう開発されたもので、Webを介して、Onlineで教室や自宅からのアクセスが可能である。2012年度前期より、普遍教育英語科目「CALL英語」で使用される。

また工学研究科との共同開発により、これまで開発された聴解力養成CALL教材15種、語彙力養成教材15種のすべての教材がスマートフォン（アンドロイド、iPhone）で使用できるようになった（図）。教材をダウンロードして使うアプリ型で、通信環境、アクセス速度、バッ



テリー容量を気にすることなく、ビデオ、静止画、音声、文字を組み合わせた従来のCALL教材と同様の学習が可能である。現在、従来のパソコン版との学習履歴を同期させる作業を行っており、2012年度中の使用開始を予定している。

#### 8) 海外研修外国語の引率

- ・海外研修英語（モナシュ大）の引率を実施した。参加者は32名。
- ・海外研修英語（アルバータ大）の引率を実施した。参加者は35名。
- ・海外研修英語文化（アラバマ大学）の引率を実施した。参加者は32名。
- ・海外研修英語（アラバマ大学）の引率を実施した。参加者は21名。

#### 9) 千葉大学CALLシンポジウムを3月に開催。

#### 【日本語部門】

教養展開科目（コミュニケーションリテラシー）の提供について

2006年度に発足した日本語部門は、1年次生全員対象にアンケート調査を実施した結果、千葉大生は、1) 教員、先輩、同級生との対人コミュニケーションを不得意とし、2) レポート作成、3) 口頭発表に必要なスキルを習得せずに入学している実態が明らかになった。そこで日本語部門では、2007年度以来4年間、これらの3つの問題点を解決するためのコミュニケーションリテラシー科目を毎年3科目、4年間にわたって提供してきた。その結果、いずれの科目にも共通して一層強化する必要があると認められたのが「論理的思考力」と「クリティカル・シンキング（批判的思考力）」であった。いくらスキルを磨いても、コンテンツとなる論点について深く考察する力が不足してはスキルも無に帰すということである。

そこで5年目に当たる本年度は、「対人力」と「文章表現力」の育成に加えて「思考とコミュニケーションのプラクティス」という「思考力」育成を目指す科目を新たに提供した。これにより、アカデミック・コミュニケーションの基礎（の基礎）となる「情意面」、「スキル面」、「思考面」の3本柱が一層強固になった。

#### 【初修外国語部門】

##### 1) 初修外国語のガイダンスについて

4月11日：

例年通り初修外国語のガイダンスを行った。このガイダンスでは、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語の初修外国語科目だけではなく、トルコ語、アラビア語、ハンガリー語、ラテン語、ギリシア語などの教養展開科目の担当の先生方の協力を得て、12言語の紹介が行われた。昼休みという限られた時間で各言語の説明は非常に短いものとなったが、各言語の担当の先生方の工夫により、それぞれの言語の「お国柄」を反映した、楽しくかつ情報量の豊富な催し物となった。

2) 日独交流150周年の記念講演会について

6月20日:

千葉県日独協会と共催し、けやき会館において日独交流150周年の記念講演会を行った。本講演会では、ドイツ語の清野准教授が、「外国語の効率の良い勉強法—ドイツ語を例として—」というタイトルで講演を行い、本学学生の参加者をはじめ、近隣の高校生、住民などが多く参加し、好評を博した。また、この講演会では、清野准教授の講演と並んで、メルセデス・ベンツ日本株式会社の前社長であるナンディ氏による講演「ドイツ人気質と技術革新—メルセデスベンツの125年—」という講演も行われた。

3) 海外研修外国語の引率について

- ・ライプツィヒ大学ドイツ語研修の引率を実施した。参加者は8名。
- ・フランシュ・コンテ大学フランス語研修の引率を実施した。参加者は5名。
- ・湖南大学中国語語研修の引率を実施した。参加者は11名。

通年

言語教育センター図書室（総合校舎H号館一階、H12教室）の運営

（授業期間中の昼休みに、センター教員が各言語に関する参考書や検定対策本を貸し出し、質問や相談に応じている。月：フランス語教員、火：中国語教員、水：英語教員、木：ドイツ語教員、金：英語教員）